

2024 年 6 月 18 日
日本船主協会 企画部広報室

海運の重要性を学校教育の場で
～新潟にて海事施設の見学会を開催～

日本船主協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、教育関係者に対し商船やコンテナターミナル等海事施設の見学会や出前授業等を実施しております。

今般、北陸信越海事広報協会等とともに、新潟国際貿易ターミナルの協力を得て、6月5日（水）に新潟市立南浜中学校2年生と教員の約20名を対象にコンテナターミナルの見学会を開催しましたのでその模様をお知らせします。

【見学会概要】

はじめに、当協会から、日本の貿易量の99%以上を海運が担っていること、そして海上輸送で運ばれる貨物を受け入れる港湾が私たちの生活に密接に関わり重要な役割を果たしていることを説明しました。さらに、新潟国際貿易ターミナルのようなコンテナ埠頭に入港するコンテナ船についても解説し、海運や港湾などの海事産業で働く多くの人々が私たちの日常生活を支えていることを紹介しました。



その後、北陸信越海事広報協会から、新潟東港の概要（貨物の取扱量、品目や輸出入金額等）やガントリークレーン等の荷役機器をはじめとするターミナル施設について、資料と動画を用いて説明がありました。



説明後、参加者は社屋屋上からコンテナターミナルを見学しました。多くのコンテナが蔵置されている様子や荷役作業に興味を持ち、特に3隻のコンテナ船が同時に着岸して荷役を行っている光景に驚いていました。

参加者からは、「日本の貿易量の99.6%（重量ベース）は船が運んでいることは非常に驚いた」「上越新幹線の車両の長さを超える全長のコンテナ船があることに驚いた」といった声が聞かれました。

当協会は引き続き、日々の暮らしを支える海運をはじめとする海事産業がより教育に取り入れられるよう、各種活動に取り組んでまいります。

以上